

この教材に注目！

光村図書は、中学生の心をぐっとつかんで、思わず何かを言いたくなるような題材を探し続けています。そのうえで、題材の魅力を最大限に生かし、「考えるに足る教材」に仕上げることに、さらに、それらの教材に最適な時期に出会えることを大切に教科書を編集してきました。ここでは、1年間の学習の流れに沿って、編集委員の及川仁美先生と荒木寿友先生のおすすめ教材をご紹介します。



及川仁美
●おいかわひとみ
岩手県盛岡市立厨川中学校
指導教諭。『道徳教育』（明治
図書出版）にも多くの記事を執
筆。光村図書 中学校「道徳」教
科書編集委員。



荒木寿友
●あらきかずとも
立命館大学大学院教授(教育
学、道徳教育)。著書に『いち
ばんわかりやすい道徳の授業
づくり』（明治図書出版）など。
光村図書 小・中学校「道徳」教
科書編集委員。

1年間の流れ

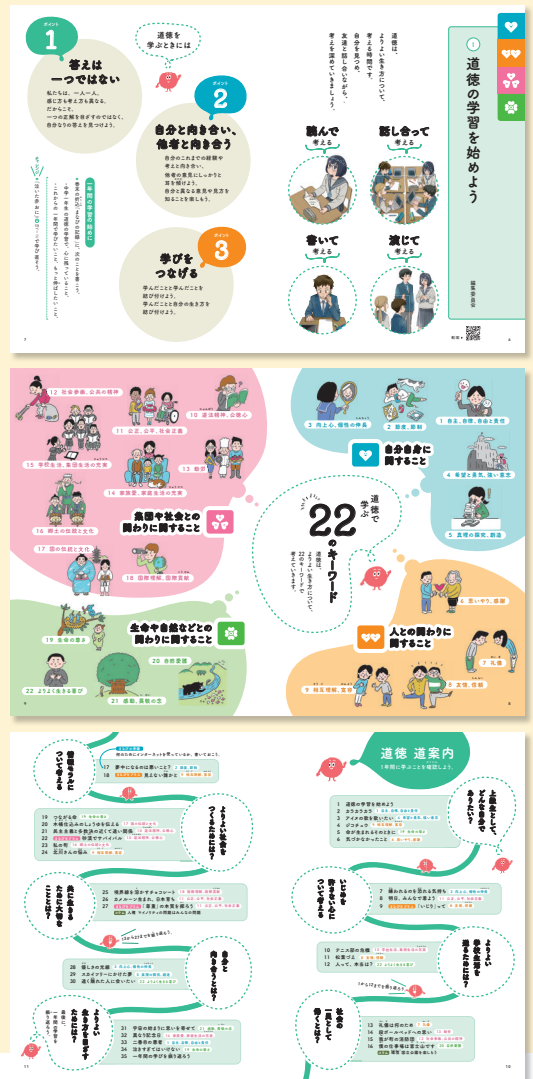
道徳の
1時間目

いじめを許さない姿勢づくり

クラスづくり、学校づくり

道徳の学習を始めよう

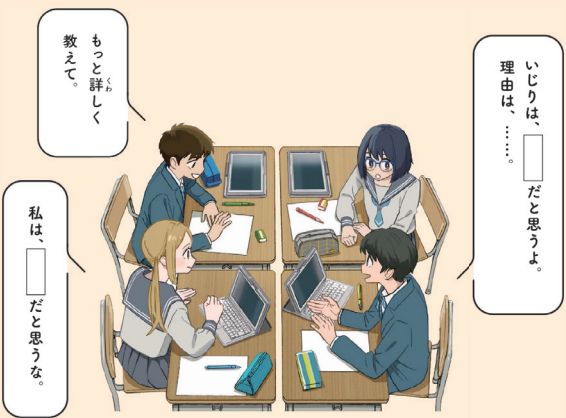
1年間の最初の道徳の授業。道徳では何を、どんなふうに学ぶのかをクラスのみんなで確かめます。



2年

B (8) 友情、信頼

9 「いじり」って



たった1文字違うだけの「いじり」と「いじめ」。「いじめはだめだけど、いじりは笑いにも通じるし、OKでしょ？」と捉えている生徒もいるのではないのでしょうか。しかし、基本的に、「いじり」と「いじめ」には、大きな違いがあるわけではありません。「いじる」とは、他者をもてあそぶこと。「いじめ」は被害者側から語られるのに対し、「いじり」はいじっているほう、つまり加害者側から語られているにすぎません。「いじり」に正面から向き合い、その行為がもつ暴力性に気づいてもらえたらと思います。

(荒木寿友)

1年

C (15) よりよい学校生活、集団生活の充実

11 みんなで成功させよう

この教材は、生徒にとって「あるある」な出来事を教材化したものですが、このようなリアルな問題を道徳の授業で扱うことで、生徒は、実生活の中で出会う道徳的な問題を解決していくことができるようになります。各教科では、オーセンティックな学び（具体的な本物の場面に即した学び）で真の学力の向上をねらっていますが、道徳も同様です。そうでないと、本物の道徳の力は身につかないでしょう。

(荒木寿友)



3年

B (6) 思いやり、感謝

11 言葉が見つからないとき



「人には優しくしましょう」といった表面的なことではなく、中学3年生だからこそ考えさせたい、複雑で深い思いやりをテーマにした教材です。医師であり作家である鎌田實さんの穏やかな文章が、静かに深く心にしみ渡り、胸が熱くなります。末期がんの善さんが独り言のように言った言葉。その言葉に対する看護師たちの行為を巡って、「人が人を思うとはどういうことか」「自己満足ではない、本当に相手のことを考えた思いやりとは何か」という、とても大切なことに気づくことができるでしょう。

(及川仁美)



1年 p.117

人権ユニット

人権週間(12月)の時期に合わせて、全学年に、複数の教材とコラムで人権について考えを深めるユニットを設けています。

共に生きるために大切なことは？

社会の一員として

12月

よりよい生き方を探して

道徳の
35時間目

1年

C (10) 遵法精神、公德心

23 白いスニーカー

バスケットボール部にある、「1年生が履いているのは、白のスニーカーだけ」という暗黙のきまりについて、主人公を含めた8人の登場人物が、それぞれの立場からさまざまな意見を述べています。

一見、正論のように思える意見も、違う視点から見ると「そんな見方があるのか!」と気づかされます。これを起爆剤に、たくさん意見を出し合ってみましょう。「いい」か「悪い」か、「A」か「B」かの二項対立の話し合いだけではなく、よりよい納得のために、もっといい「C」のアイデアが生まれるような、建設的な対話ができたらすてきです。(及川仁美)



3年

A (4) 希望と勇気、克己と強い意志

24 希望のカレンダー



挫折と希望。二つは、とても遠いところにあるように思えますが、実は深い関わりがあると聞いたら、生徒たちは驚くのではないのでしょうか。多くの挫折とも向き合う中学生という時期に、「希望とは何か」や、挫折を希望へとつなげた人々について考えることは、これからの人生を支える大切な経験となるでしょう。

また、これは「希望学」という新しい視点の「震災関連教材」でもあります。希望の象徴としてのカレンダーのエピソードは、とても印象的です。カレンダーと希望のつながりなどを丁寧に話し合う中で、自分たちの心にも「希望の種」がぎっくとあると、感じてくれると思います。

(及川仁美)

1年

D (21) 感動、畏敬の念

33 「感動」の本質を探ろう

2年

C (11) 公正、公平、社会正義

27 「尊重」の本質を探ろう

3年

A (5) 真理の探究、創造

32 「学び」の本質を探ろう

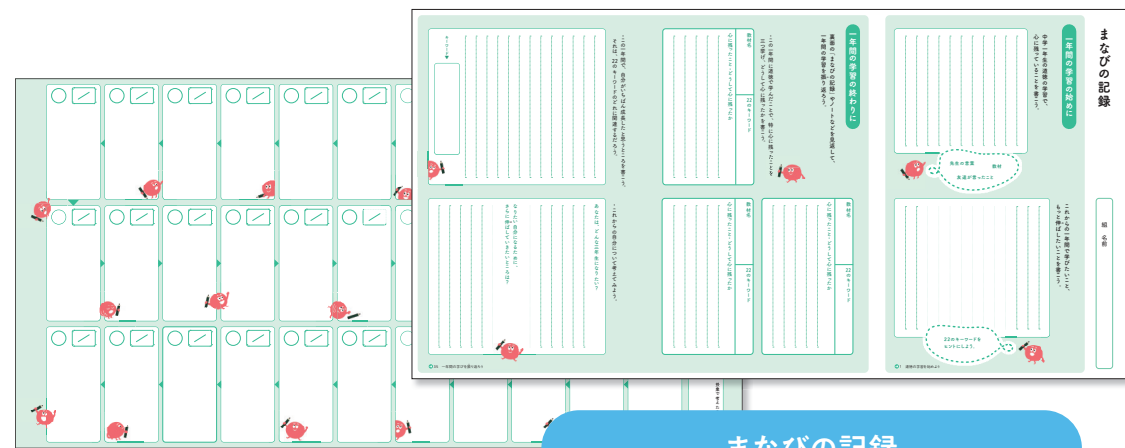
「本質」とは、「それを欠くとそれではなくなってしまう不可欠な要素」という意味。これらの教材では、「感動」「尊重」「学び」の「本質」を、生徒自身が探ることをねらっています。「こんな経験は『感動』に該当する?」「この場合はどうなる?」などの事例を考えてたくさん出し合う拡散思考と、そこから「本質」を見つけ出していく収束思考。これにより、生徒の思考力は高まっていきます。

ペーパーテストのように目の前の問題を早く解くだけでなく、じっくりと腰を据えて物事を捉えていくことも「深い学び」には大切です。先生方も、生徒といっしょに考えてみませんか。

(荒木寿友)



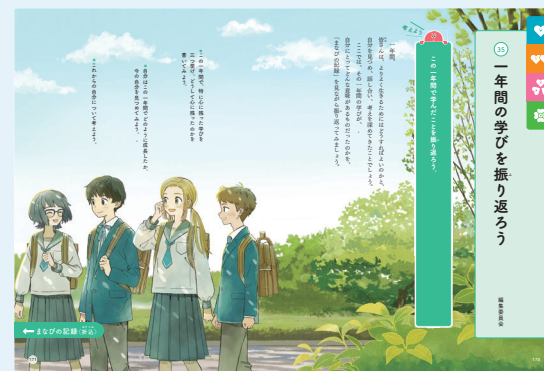
1年 p.160-161



まなびの記録

1年間の学びを振り返ろう

各学年の最後の、1年間を振り返る時間。見通しをもって学び、それを振り返って自己評価することは、自分で自分を成長させていく力を育みます。



2年 p.170-173